

内約りて今回ハ隠退の外なき事蹟にありと呈  
 も(白からいす)其の出馬の意柳へ難く再出馬に  
 してハ些論を作可く叢にハ陽市内に於了約  
 一週向に互り世界一週状況報事満満今と南條  
 一級市民として白己の存在を再認識せしむ  
 ることハ努め傑出の所望に多し。成果を修  
 めしり。 其れども一部にハ本人従来の行動に  
 対し排撃さしつゝ、あり目下の屬出馬困難なり  
 本人も石事蹟を熟知し前記三浦沢井の如きと  
 激化し澳夫の利を占めんと<sup>第</sup>思案中。

(二) 嘉徳支部——選挙起嘉徳部  
 現縣代花山清 今回当選以来水平運動に意を  
 注ぎ党利を第一義とす。干係上党内分子(故村堂夏)  
 中反感者多し。壹縣縣幹部由にてハ此際花山  
 と隠退せしめ候補者をハ陽支部より輸入しハ  
 陽支部由の候補過多を緩和せんとすの意あり。  
 此に花山清は再出馬の意持く第一党縣縣に  
 てハ志を背せずハ腹退も可なりと強硬意志を  
 有す。今支部は元来微弱にして花山清の当選  
 ハ全日本水平此九州縣令今嘉徳支部の協力に俟